

カンデサルタン錠 4mg「FFP」の 無包装状態の安定性に関する資料

[はじめに]

カンデサルタン錠 4mg「FFP」について、各種条件下で無包装の安定性試験を実施した。なお、本資料は本製剤の無包装状態での保存を推奨するものではない。

[試験結果概要]

無包装状態における安定性は、温度、湿度及び光の保存条件で、いずれの試験項目においても規格値の範囲内であった。しかし、湿度の保存条件で、規格内ではあるが硬度の低下が認められた。

[試験結果及び判定]

(1) 温度に対する安定性

【保存条件】40°C(±2°C)、褐色ガラス瓶(密栓)

試験項目	規格	経過年月			
		開始時	0.5ヶ月後	1ヶ月後	3ヶ月後
性状	白色～帯黄白色の割線入りの素錠	白色の割線入りの素錠	変化なし ◎	変化なし ◎	変化なし ◎
溶出性 (%)	水(1%ポリソルベート20添加)、50回転、45分、75%以上	89.6～93.3	88.3～89.4 ◎	88.4～89.4 ◎	85.8～87.9 ◎
含量 (%)	95.0～105.0%	99.3	98.9 ◎	98.5 ◎	98.1 ◎
純度試験	HPLCによるピーク面積比	適合	適合 ◎	適合 ◎	適合 ◎
硬度 (kg重)	(参考)	4.5	3.6 ◎	4.1 ◎	4.0 ◎

(2)湿度に対する安定性

【保存条件】25°C(±2°C)、75%RH(±5%)、褐色ガラス瓶(開栓)

試験項目	規格	経過年月			
		開始時	0.5ヶ月後	1ヶ月後	3ヶ月後
性状	白色～帯黄白色の割線入りの素錠	白色の割線入りの素錠	変化なし ◎	変化なし ◎	変化なし ◎
溶出性 (%)	水(1%ポリソルベート20添加)、50回転、45分、75%以上	89.6～93.3	90.0～91.9 ◎	89.0～91.5 ◎	89.3～90.3 ◎
含量 (%)	95.0～105.0%	99.3	98.4 ◎	98.6 ◎	99.2 ◎
純度試験	HPLCによるピーク面積比	適合	適合 ◎	適合 ◎	適合 ◎
硬度 (kg重)	(参考)	4.5	3.1 ○	3.0 ○	3.1 ○

(3)光に対する安定性

【保存条件】2000lux/hr×24時間/日照射、無色ガラス瓶(密栓)

試験項目	規格	総照度		
		開始時	60万lux・hr	120万lux・hr
性状	白色～帯黄白色の割線入りの素錠	白色の割線入りの素錠	変化なし ◎	変化なし ◎
溶出性 (%)	水(1%ポリソルベート20添加)、50回転、45分、75%以上	89.6～93.3	88.6～90.1 ◎	86.8～88.8 ◎
含量 (%)	95.0～105.0%	99.3	97.3 ◎	98.3 ◎
純度試験	HPLCによるピーク面積比	適合	適合 ◎	適合 ◎
硬度 (kg重)	(参考)	4.5	3.8 ◎	4.0 ◎

[評価基準]**【性状】**

分類	評価基準	判定
変化なし	外観上の変化をほとんど認めない場合	◎
変化あり(規格内)	わずかな色調変化(退色等)等を認めるが、品質上、問題とならない程度の変化であり、規格を満たしている場合	○
変化あり(規格外)	形状変化や著しい色調変化を認め、規格を逸脱している場合	△

【溶出性】

分類	評価基準	判定
変化なし	規格値内の場合	◎
変化あり(規格外)	規格値外の場合	△

【含量】

分類	評価基準	判定
変化なし	含量低下が3%未満の場合	◎
変化あり(規格内)	含量低下が3%以上で、規格値内の場合	○
変化あり(規格外)	規格値外の場合	△

【硬度】

分類	評価基準	判定
変化なし	硬度変化が30%未満の場合	◎
変化あり(規格内)	硬度変化が30%以上で、硬度が2.0kg重以上の場合	○
変化あり(規格外)	硬度変化が30%以上で、硬度が2.0kg重未満の場合	△

【その他の試験項目】

分類	評価基準	判定
変化なし	規格値内の場合	◎
変化あり(規格外)	規格値外の場合	△

「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」平成11年8月20日付

(日本病院薬剤師会)一部改変